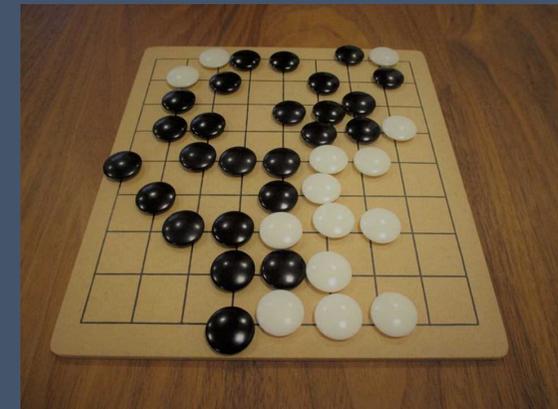


資料 1 - 1

世田谷区受託事業「みつけばルーム」の取組

NPO法人東京都自閉症協会 綿貫 愛子





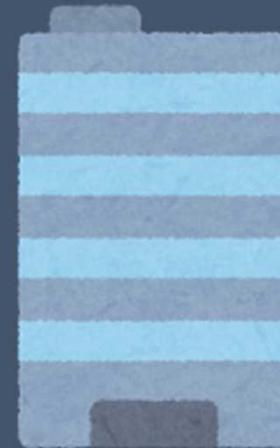
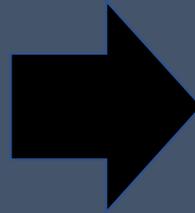
本日の内容

1. 学校から社会への移行期における発達障害者の「学び」に関するニーズ
2. 世田谷区受託事業「みつけばルーム」の取組
①背景 ②概要 ③利用者 ④成果 ⑤課題
3. 求められる方策



1. 学校から社会への移行期における発達障害者の「学び」に関するニーズ

離職率も高い

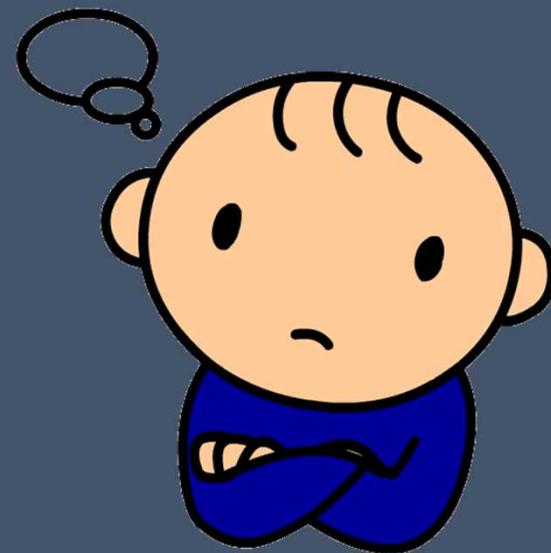


「就労」
「自立」
と盛んに
言われる
けれども…

- 不登校、ひきこもりの状態にある発達障害者も多い。
- 就労や自立の前に、必要なことがあるのではないか。
- 「自立して生きる基盤となる力」「人生を豊かにする活動」
→対人交流や社会参加へのモチベーション、QOLの向上

発達障害者が、この社会に自らコミットしていくために…

- どのような本人ニーズがあるのか？
- どのような支援アプローチがよいのか？





2. 世田谷区受託事業「みつけばルーム」の取組



発達凸凹のある若者が、
多彩なワークショップ
を通じ、『ナニか』を
みつける場所

実施期間 平成28年6月1日～

※世田谷区民のみ、登録制

運営：NPO法人東京都自閉症協会



みつけばルームの取組 ① 背景

世田谷区の資料参照

※ 「発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議」
（平成30年2月9日、厚生労働省・文部科学省等
主催）にて、都道府県及び政令指定都市の福祉担当
者・教育委員会担当者等向けに事例報告



みつけばルームの取組 ② 概要

◆支援アプローチ①

- ピアサポート…発達障害の成人当事者や特に自閉スペクトラム症（ASD）の小集団によるピアサポート。

人類学的研究や神経学的研究から、ASD者同士では、社会性やコミュニケーションのデザインを共有でき、共感が成立することが示されている（e.g. Komeda, et al., 2015; Ochs & Solomon, 2010）。



みつけばルームの取組 ② 概要

◆支援アプローチ②

- 余暇支援…余暇支援に関する研究は多くないが、Dattilo (2010)は、ASD者への余暇支援の効果を検証し、明らかなストレスの軽減や、QOL（満足感、自立、コンピテンス、社会的相互作用）の向上が認められたことを報告している。

本邦では、ASDの小集団で、余暇支援のプログラムを受ける経験が、小集団以外での対人関係や就労・自立にポジティブに寄与する可能性を示す報告がある（日戸・武部, 2018）。



みつげばルームの取組 ② 概要

◆コンセプト

- 職員の9割が、発達障害の当事者（ピアサポート）
- ストレスフルな世界 ⇒ リラックスできる環境づくり
- 自己認知 ⇒ ありのままの自分を自己表現できる経験
- 社会適応 ⇒ 自分のペースで、ゆるサバイバル
- 沼 ⇒ 川のように、広い海につながっている居場所
- ニンゲン関係 ⇒ 広い視野で世界のあらゆるものと共存



みつけばルームの紹介 ② 概要



放送作家



フード
コーディネーター



アーティスト



ビオトープ管理士



アーティスト



みつけばルームの紹介 ② 概要



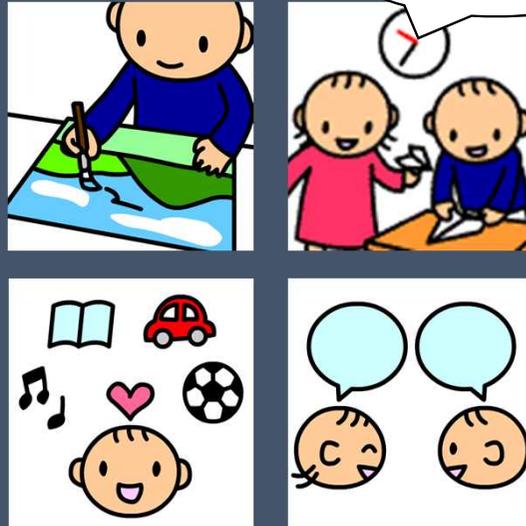


みつけばルームの取組 ② 概要

◆ワークショップの構造

ASD感覚で

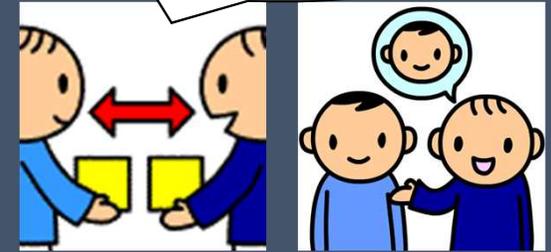
興味が
持てる
テーマ
の提示



訓練ではない
自然な活動



社会参加・QOL



- 作品を通し、他者を理解しやすい。
- 自分を知ることができる。
- 自分らしい生き方がみつかると？



ピアサポーターの視点から(参考)

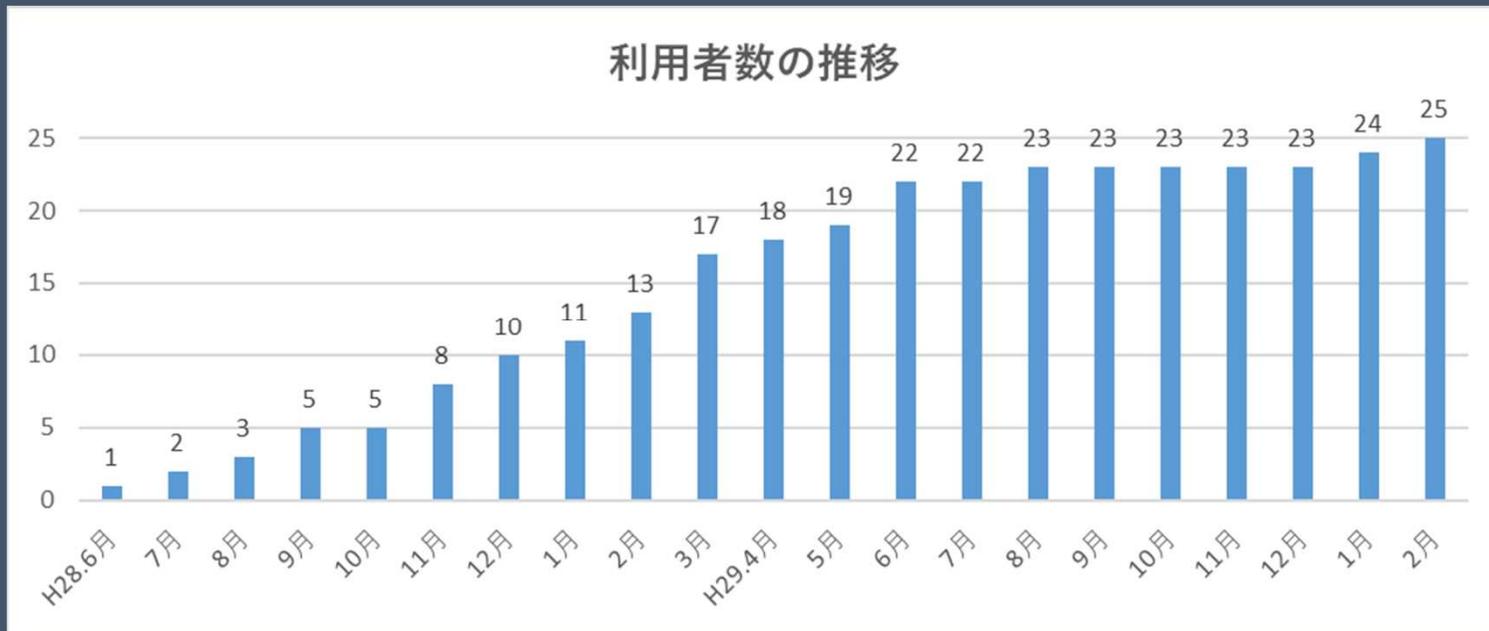
◆みつけばルームのよいところ

- 興味関心もてるプログラムで、学んだり、遊んだりできる。
- 来所は日時が決まっていて予約制なので、安心できる「居場所」になっている。
- 音声言語以外に、自分を表現する方法や機会がある。
- 作品づくりなど具体的な対象があると、コミュニケーションしやすい。
- 職員と利用者は、感覚や思考、経験が似ているので、一緒に活動したり、サポートしたりしやすい。



みつけばルームの取組 ③ 利用者

- 利用者数 25名（平成30年2月時点）
- 平均年齢 21.0±3.4歳 ・ 男性 16名、女性 8名

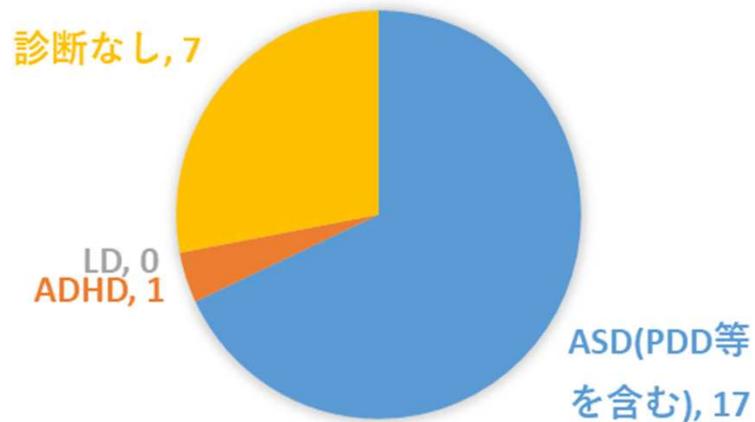




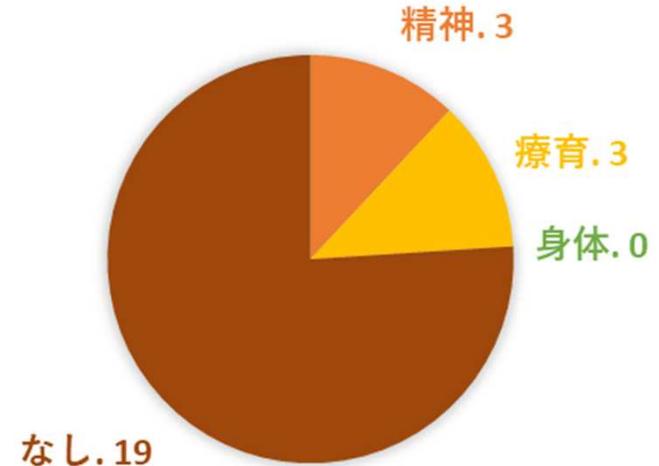
みつけばルームの取組 ③ 利用者

- 主な診断名と手帳取得状況 (N= 25)

発達障害種別 (人数)



利用者の手帳取得状況 (人数)



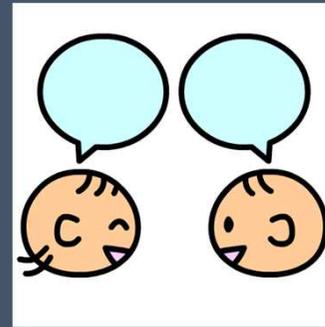


みつけばルームの取組 ④成果

◆利用者の変化



- 外出できた
- 通えた

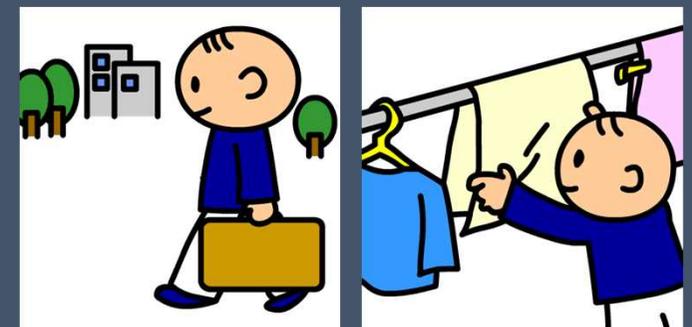


- 他者理解
- 人と話せるようになった

- 自己理解
- 好きなことが見つかった



- 就労へ意欲
- 家族の変化





みつけばルームの取組 ④ 成果

興味のあるワークショップで、みんなと盛り上がる
ところがいい



平成28年度 事業報告書
利用者アンケートから引用



生活に役立つ+αのスキル
や知識を身につけられる

いろいろな人の意見を
聞いたり、見たりすることで、
想像の幅が広がった

自分の思っていることを
みんなの前で表現できる
ようになった

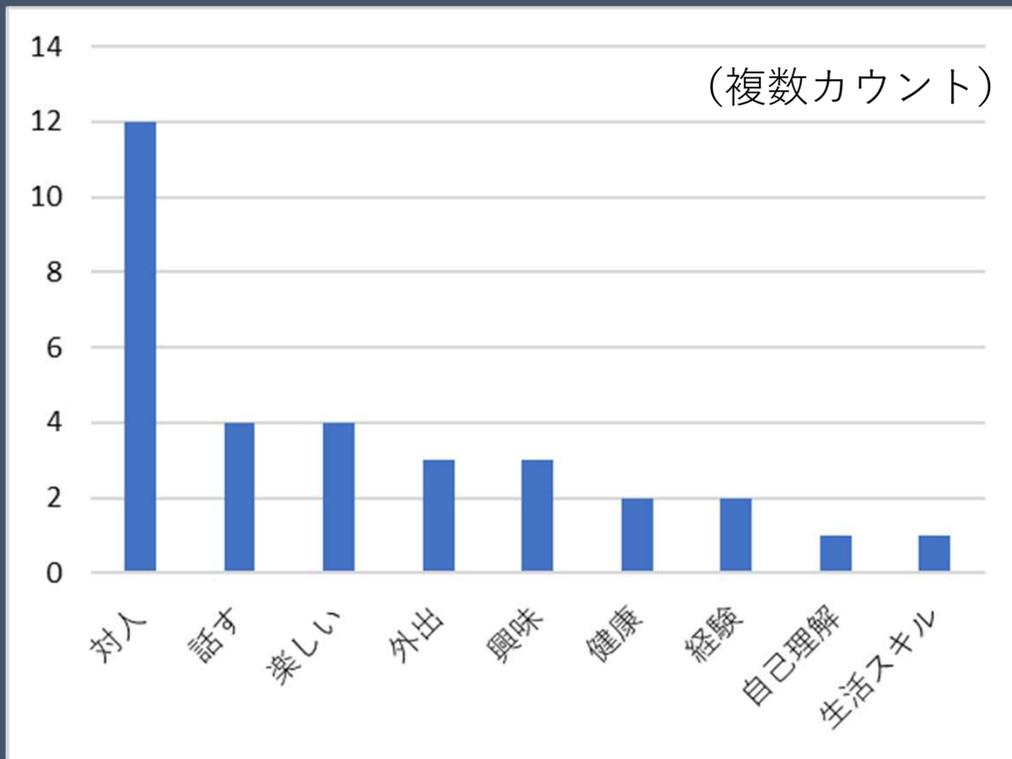




利用者アンケートから(参考)

自由記述

Q. みつけばを利用してよかったことは何ですか？ (N= 13)



- 13名中8名が、人について言及していた (e.g. 「興味のあることを気心の知れた人達と体験することができたのでよかった」)
 - ピアサポートの効果？
 - 余暇支援では、他者との交流が大切？
- 楽しさ、興味関心の対象についても言及があった。
- 外出や健康面についての記述も見られたことから、QOLの向上が考えられた。



利用者アンケートから(参考)

自由記述

Q. みつげばを利用して見つかったことは何ですか？ (N= 8)

- いろいろなことにチャレンジしてみたいと思った。
- 色々な人の意見を聞いたり、見たりすることで、想像の幅が広がった。
- 自分が思っていたより自然に興味があったこと。
- ふつうの気持ちと絵を描きたい気持ちが自然に湧いてきた。
- 意外にも自分が植物や自然に関することに興味があるんだなと発見した。
- TRPGという楽しいゲームをみつけられた。
- 自由にワークショップ利用できること。 • コミュニケーションの向上です。
- 趣味の合う人がいること。



利用者アンケートから(参考)

自由記述

Q. みつけばを利用して見つかったことは何ですか？ (N= 8)

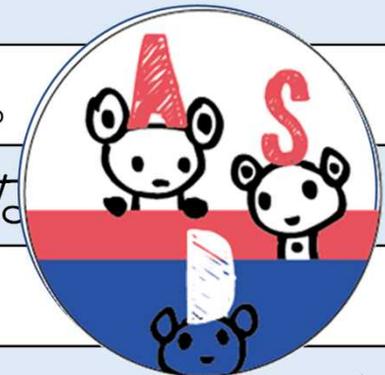
- し
- 毎
- 目
- 心
- 意外にも自分が世の中、自然に属する場所を見つけた。
- TRPGという楽しいゲームをみつけられた。
- 自由にワークショップ利用できること。 • コミュニケーションの向上です。
- 趣味の合う人がいること。

安心安全に感じられる空間のなかで、自分らしく話したり、学び・遊んだりすることが、本人の社会参加のモチベーションやQOLの向上に繋がること示され始めている

幅が広がった。

た。

んだな





みつけばルームの取組 ⑤課題

◆利用についての課題

- 関係機関からの紹介を原則としており、利用にいたるまでのハードルが高い。 → 紹介がなくてもよいシステムの検討
- 関係機関から紹介されても、利用につながらなかったケースがある。 ☆ 本人の準備性、生活状況の変化、親の意思など
- 就労など明確なゴールを設定していないため、成果を数値化して示すことが難しい。 → 本人変化を評価



みつけばルームの取組 ⑤課題

◆支援アプローチの課題

- ピアサポーターには適正があり、経験も必要である。特に、若い世代の人材確保が難しい。 → 学生ボランティアの活用
- ピアサポートの有効性はエビデンスが乏しく、対外的に実証することが難しい。
- 発達障害者支援における学び（余暇や遊びを含む）の重要性を検証し、理解を広めていきたい。
→ 研究部会の設置、有効なプログラムの開発



3. 求められる方策

◆学校から社会への移行期における発達障害者の学びに関するニーズ

- 「就労」「自立」の基盤として、自分のことや社会のことを知る経験ができること。自己表現が自分を知ることにつながる。
 - 自分らしさ（アイデンティティ）の獲得（再獲得）
 - 「レジリエンス（自己回復力）」を育てる
- 「やってみたい!」「楽しい!」と思える機会を提供する。
 - 対人交流や社会参加へのモチベーションにつながる。



3. 求められる方策

◆学校から社会への移行期における発達障害者の学びに関するニーズ

- ・現状、学校段階で資質や能力を身に付け、維持・開発することが難しい発達障害者が多い。
- ☆学齢期や青年期前期から、ピアサポートによる学びの支援など有効な支援アプローチを検討する必要がある。
- ☆多様な選択肢のあるキャリア教育が求められる。



3. 求められる方策

◆特に学校から社会への移行期に必要な内容

- 自分を自己表現し、自分や社会のことを知ることができる
機会の提供。
 - ☆障害特性の理解が、自分を知ることではない。
 - ☆学校段階では、制限されやすい経験を丁寧に保障する。
- 多様な就労や生活の選択肢を想定した内容や支援の提供。
 - ☆企業就労、福祉就労だけを想定した社会体験や就業体験、
生活体験にならないようにする（スペシャリストも想定）。



3. 求められる方策

◆生涯を通じて必要な内容

- 対人交流や社会参加へのきっかけ、意欲に繋がる内容の提供。
☆仕掛けとして、発達障害者はマニアックな知識や活動に惹かれやすいので、一般的なレクリエーションに囚われない発想が必要である。「正解」を目指さない。
☆ピアサポートのように、類似する他者との交流もきっかけとして役に立つ。
- 合理的配慮、アクセシビリティの向上。
☆調査や事例集でも、発達障害に関する知見が少ない。

ご清聴ありがとうございました



Facebookページ
を更新中



Happy, healthy and empowered !!